

「子どもに学ぶ」

コロナにより日常が一変し、当たり前だったことが当たり前でなくなった今、誰しもが戸惑い、不安を感じていることと思います。こうした状況を子どもたちがどのように捉えているのかをある小学校の様子から考えてみたいと思います。

いつものように、元気に登校してくる子どもたち。以前と違うのは、みんながマスクをしていること。マスクから聞こえる「おはよう」の声は、前と変わらない。

教室では、席と席が離れていて、ちょっと距離がある感じ。それでも子どもの目はキラキラしていて、学びを楽しんでいるよう。

休み時間。遊びに夢中になり過ぎて、いつの間にか、友だちとくつき過ぎてしまったり、おしゃべりに夢中になり過ぎて、マスクがズレてしまうことも。そんな時には、慌てて友だちと離れたり、マスクを整えたり。健気な姿にほっこりすることも……。

給食の時間。前とは違うのは、黙食になったこと。黙食しながらも、目と目でコミュニケーション。何が楽しいのか、時々笑いあったりする姿は、なんとも子どもらしい。

こうした姿を見ていると、子どもは、コロナにより変化した日常を受け入れているように思えます。そして、そうした日常の中にもちょっとした楽しみを見出し、この状況が過ぎ去ることを待ち望んでいるようにも思えます。

こうした子どものしなやかな姿を見て、「見習わないといけないな～」と思うのです。

どんな時にも、ささやかな楽しみを見出す子どもの姿から、苦難の乗り越え方を教えてもらっているように思います。

非常勤講師 辻あゆみ

